

2019年全日本カート選手権 OK部門 第3・4戦 2019年全日本カート選手権 FS-125部門/FP-3部門 東地域第2戦
2019年ジュニアカート選手権 FP-Jr部門/FP-Jr Cadets部門 東地域第2戦 [JAF公認No.2019-1807]

開催日：6月1～2日 開催場所：本庄サーキット 格式：国内/準国内 主催：T.KBF [クラブ登録No.公認81102]、SPH [団体登録No.公認81101]

フォト/小竹充、JAF スポーツ編集部 レポート/水谷一夫

常にトップが入れ替わる激しいバトルが展開された第3戦。佐々木大樹選手が僅差で優勝を掴み、チャンピオン獲得へ弾みをつけた。



ベテランの意地! OK 部門第3戦は佐々木大樹選手が勝利!!

鈴

鹿での開幕戦から5週間後、国内カートレースの最高峰たる全日本OK部門の戦いは埼玉へ。第3戦/第4戦の舞台となる本庄サーキットは、主に自動車やバイクのスポーツ走行に使用されるミニサーキットで、カートレース用としては異例の高速タイプのコースだ。ストレートは長くコース幅も広いこのサーキットの大会では、例年スリップを使い合っの激しい集団戦が繰り広げられる。

第3戦の決勝もその例に漏れず、目まぐるしく順位が入れ替わる激闘となった。レース序盤を牽引したのは、ルーキーの大草りく選手。やがて5番グリッドから浮上した佐々木大樹選手

が先頭に立つと、渡会太一選手、朝日ターボ選手、三村壮太郎選手、山田杯利選手もここに連なつて先頭集団を形成する。

レース終盤、皆木駿輔選手と水野皓稀選手がトップ争いに追いつき、先頭集団は8台へと膨張。そのあちこちで攻防とポジションチェンジが繰り返され、チェッカーに向けて戦いは過熱していく。この熱戦を制したのは佐々木選手だった。先頭で最終ラップを迎えた佐々木選手は、6コーナーからの加速競争で大草選手に先んじると、目の前の混乱に乗じて2番手に浮上した山田選手を0.05秒差で下してゴール。「こういうレースでは、抜かれ方がヘタだとすぐ3～4ポジション落ちてしまう。それを上手

くできたことも、今回の勝因のひとつだった」。ベテランらしい巧みなバトルで勝ち取った2連勝だった。

初勝利の匂いを漂わせていた大草選手は3位フィニッシュ。4位には渡会選手。かくして1～4位にブリヂストン勢が並ぶ結果となったが、5位の朝日選手が覆いたダンロップも、7位の三村選手が覆いたヨコハマも高いパフォーマンスを見せ、タイヤ開発競争は3社横一線の様相を呈していた。

今回のパドックで多くの選手が口にしていたのが、「ダンロップの初動がいい」という言葉だった。第4戦の決勝は、それを実証する幕開けとなった。ポールから先頭のまま発進した皆木



OK 部門第3戦/1.入賞の皆さん。2.わずか0.05秒差で2位と悔しさをにじませつつ、次戦の優勝を誓った山田杯利選手。3.大草りく選手はルーキーながら3位と大躍進。この自信は今後のレースの糧となるだろう。

2019年オートバックス全日本カート選手権・第4戦



OK部門第4戦／4.入賞の皆さん。5.皆木駿輔選手と抱き合って表彰台獲得を喜ぶ三村壮太郎選手。6.初表彰台となる2位入賞はブリヂストンタイヤを履く水野皓稀選手。7.3位はヨコハマユーザーの三村選手。8.スタートから逃げ切り優勝を果たした皆木選手はダンロップタイヤ。これにより3メーカーが表彰台に並んだ。

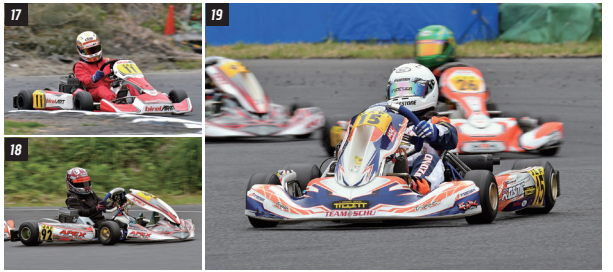


FS-125部門／9.最後の周回まで順位が入り替わる大混戦のレース展開となったが、ここで1位を掴み取ったのは初優勝の荒尾創大選手。10.ルーキーの野村勇斗選手も大健闘したが、あと一歩が届かず2位。11.中国グループから着実にポジションアップしてきた星涼樹選手が3位入賞。12.入賞の皆さん。

選手に続き、井本大雅選手が8番グリッドから一気に2番手へ、朝日選手も4番グリッドから3番手へ上がり、ダンロップ勢の1-2-3体制を作り上げたのだ。

ここから皆木選手のペースが他を上回り、レース中盤には2秒以上のリードを構築。そのままチェッカーへと駆け抜けて、独走でポール・トゥ・ウィンを飾った。
「この優勝は(自分の今後に)すごく大きな意味を持つと思います」と、デビューイヤーの昨年から光る速さを見せていた皆木選手。ダンロップの復調とともに勝負権を得た今季、早くもそ

の才能を2年目の初優勝へと結実させた。
2位はスタート直後のポジションダウンをハイペースで挽回した、ブリヂストン勢の水野選手。3位にはヨコハマ陣営の三村選手が入り、表彰台はタイマーメーカー3社それぞれのユーザーの揃い踏みとなった。
同時開催の全日本選手権・東地域第2戦。FS-125部門では、決勝のラスト3周で10台が一丸となり、闘志むき出しの死闘を繰り広げた。そんな中、一時は6番手に後退した荒尾創大選手が、無我夢中のチェイスでトップに戻り初優勝を遂げた。前戦ではラスト数十メートル



FP-Jr部門／17.フロントローからのスタートだったが、わずかに届かなかった上野晴紀選手は2位に入賞。18.5番手スタートから3位表彰台を獲得したのは浅見謙心選手。19.堂園篤選手はポール・トゥ・ウィンで開幕2連勝を飾り、ポイントリーダーのポジションをしっかりと堅めた。20.入賞の皆さん。



FP-3部門／13.熾烈なトップ争いを制したのは大西勝太選手。スポット参戦ながら見事優勝した。14.前戦で優勝した佐々木大河選手はその勢いに乗って2連勝を狙っていたが、残念ながら2位となり、表彰台で悔し涙を流すシーンも。15.他選手の失格で繰り上がり3位入賞の小泉棕靖選手。16.入賞の皆さん。

で勝利を逸してしまった荒尾選手は、「もてぎの悔しさを晴らせました」と笑顔をこぼす。2番手でゴールした小田優選手は、無念のペナルティで降格に。代わってルーキーの野村勇斗選手が2位、11番グリッドから急浮上の星涼樹選手が3位となった。
FP-3部門では、大西勝太選手と佐々木大河選手がマッチレースを展開し、大西選手が最終ラップの再々逆転で優勝。佐々木選手は2連勝を逃すも、2位でランキング首位をキープした。3番手でゴールの山本祐輝選手は車検失格となり、小泉棕靖選手が3位を得た。



FP-Jr Cadets部門／21.土曜日のタイムトライアルで好調な兆しを見せていた鈴木恵武選手が2位。22.前戦で惜しくも表彰台を逃した千田琉真選手が本庄で3位入賞を果たした。23.2番手スタートの菊池貴博選手は落ち着いたレース運びを展開し、大集団のバトルを制して優勝。24.入賞の皆さん。